

現象学からみた人間形成論

柴田学園大学 こども発達学科 齋藤 雅俊

TEL 0172-32-2289 FAX 0172-33-2486

顔写真等
(希望者のみ)

e-mail m-saito@shibata.ac.jp

Web 等(該当するものがある方のみ)

キーワード

現象学 E. フッサー 教育哲学 人間形成論

○研究テーマ

主な研究テーマは「現象学からみた人間形成論」です。そして、現象学者の中でも特に、その創始者である「E. フッサー」に焦点を当てて研究に取り組んでいます。

この「現象学」とは、人間諸科学が対象とする領域、すなわち「自我、世界、環境、場所、認識、経験、実存、生、存在、時間、現実、直観、主觀と客觀、対話、共通理解、本質、意味、表現、記述、解釈、精神と身体、意識と無意識、文化、社会、宗教、等々」といったことについて、先入見からはなれたまなざしで「直観」するという方法論です。

こうした現象学に特有の方法論を見直しながら、フッサーの「生活世界論」や「間主觀性理論」なども参考にしながら、教育的現実からいかにその教育的意味を汲み取るか、といったことについて検討しています。

○研究の方向性

これまで、例えば文部科学省および独立行政法人日本学術振興会による科学研究費助成事業において、「自然と教育—ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在—」(平成 21~24 年度)、「18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学」(平成 25~29 年度)に共同研究者として参加してきましたが、今後の研究の方向性としては、教育実践とも関連させながら「ヒトが人間になる」という問い合わせについて考察していきたいと考えています。

その手がかりとして、大学出版会からいくつかの教職関連の冊子(「教職実践演習」「教育実習」「教職の理解」「道徳教育」関連)を刊行していますが、その際に知遇を得ることのできた現職の小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の方々と連携を図っていきたいと考えています。こうした実践的取り組みの中で、教職の意義や人間形成という事象をあらためて問い直しています。